

【鹿児島県西之表市安納地区】

建設会社が農業参入し、地元特産物で荒廃農地を再生利用

主な取組主体：(有)西田農産

再生面積：39.7ha(平成28年時点累計)	取組年次：平成15年～
作付作物：さつまいも(安納いも)他	販路：製菓会社、製パン会社他
活用した事業(農林水産省所管事業)：	6次産業化ネットワーク活動交付金 (加工施設設置等に活用) 農の雇用事業(若手社員育成に活用)



「安納いも」の発祥の地である安納地区を高台から見下ろす

○概要

建設会社が農業に参入し、荒廃農地を再生し地元特産物である安納いもを主体に作付け、6次産業化にも取り組む。

1. 地域農業の状況と荒廃農地発生要因

西之表市は鹿児島県の種子島北部に位置しており、亜熱帯性気候を活かしてさとうきび、さつまいも、水稻、酪農等の複合経営による農業生産が展開されてきた。

近年は収益性の高い野菜の導入も盛んとなっているが、高齢化、担い手不足、鳥獣害などを要因として荒廃農地が増加傾向にある。

2. 取組内容

(1) 取組が開始された背景

(株)西田工業は西之表市内で建設業を営んでいたが、平成14年以降の公共事業需要減少に伴い、公共工事発注が少なくなる期間(4月から9月)の雇用対策のため、新たな業種への参入を検討していた。

検討の結果、社長が農家出身であり従業員の過半も兼業農家であったため、新たな業種として農業が選択され、平成15年に農業生産法人(有)西田農産を設立し農業に参入することとなった。

さとうきびとさつまいもが西之表市の基幹作物であったが、当時の焼酎ブームを受けて、焼酎用さつまいも栽培に取り組み始めた。



「焼き」工程前の安納いも

(2) 土地利用調整の経過

面的にまとまった農地であることを条件に、社長の人脈を活かして空いている農地の情報を入手し、社長自ら地権者交渉を行って同意が得られた農地から再生利用が始まった。

その後、西田農産の評判を聞きつけて、高齢で耕作が困難になった人などから農地を使って欲しい旨の問い合わせが来るようになり、栽培面積が次第に拡大していった。

(3) 再生作業

引き受けた農地は大抵の場合荒廃が進んでおり、再生には伐採や抜根作業を要するため、自社の建設用機械を活用して作業が進められていった。

10a程度の荒廃農地であれば、2週間前後で再生作業自体は可能であるが、そこから土壌改良を行い安定した収穫が得られるまで4～5年は要することが多い。



再生前



再生後



再生作業中



安納いも栽培風景

(4) 作付け指導

社長の実家が農家であり従業員の過半も兼業農家であったため、栽培技術はもともとあった。

ただし、新たな作物の導入等、栽培をしていく上で疑問点が出れば、県普及員やJA 営農指導員の指導を受けることもある。

(5) 現在の状況

参入当初は焼酎用さつまいもの作付けが主体であったが、現在は焼酎の需要が落ち着いたため、安納いもの作付けが主体となっている。

安納いもは地元の特産品であり、少量は西田農産でも作付けされていたが、偶然テレビ情報番組で安納いもが注目されていることを知る機会があり、本格的に栽培が開始された。

安納いもは形状によって選別され、アイスクリームや製菓材料として焼きペースト状に加工して出荷するもの、自社で焼き芋に加工し冷凍状態にして出荷するもの、青果として出荷するものなど複数の出荷形態がある。加工のための施設も自社で整備され、特に焼きペーストや焼き芋加工用の炭火焼き芋釜は自社で開発された特許技術が活かされ、良質な加工品が出荷されている。なお、安納いもはキュアリング室と石窯貯蔵庫で2ヶ月間熟成され糖度20度以上が確保されている。



安納いも選別作業。選別後はキュアリング(いもの温度を34度に上げる)作業後、貯蔵庫(後ろに見える石垣部分)で2ヶ月間熟成される



貯蔵庫での熟成により糖度が上がる



自社開発の炭火焼き芋釜。2時間かけてローストされ焼き芋となる

(6) 販売先の確保

参入当初は社長の人脈を頼りに酒造会社と取引が始まった。焼酎用さつまいもの端境期の出荷対策として、一旦蒸したものを冷凍して出荷することにより、酒造会社への安定的な供給を図った。端境期の安定供給や、良質なさつまいもの出荷を心がけた結果信用が生まれ、他の酒造会社からの受注も増えていった。

現在は製菓原料用(焼き芋ペースト)や青果用などの安納いもの出荷が主体となっている。

(7) 今後の取組方針

種子島の風土(土壌、海風等)により、大変甘いタマネギが収穫出来るため、タマネギ栽培も開始された。既に地元のタマネギ農家と西之表市を構成員としてタマネギ生産組合が設立され、種子島のタマネギブランド確立に向けて

活動が始まっている。

常に儲かる農業を目指し魅力ある業種となるよう、6次産業化をはじめとして様々な取組がされている。

3. 取組の効果

栽培面積の拡大に伴い、多くの荒廃農地が再生利用されることとなった。

地元雇用の場の創出にも繋がっている。種子島では高校卒業後に島を出て行く若者が多く、社内にも若い人が少ないが、農業を魅力ある業種とすることにより将来彼らが帰島した際の雇用確保の場としていくことも目指されている。

4. 今後の課題

さつまいもやタマネギは、連作障害対策のために農地のローテーションを行わなければならないが、これに必要な農地確保が課題となっている。

鳥獣害も多いため、シカ対策のために新たに金属ネット柵を設置する予定となっている。

また、幹部候補生の育成や新たな作付け品目の検討と加工施設の拡大も、今後の検討課題となっている。



シカ対策用の金属ネット柵。シカが飛び越えることが出来ない高さとしている

○問い合わせ先

西之表市農業委員会 農地振興係

TEL : 0997-22-1111 (内線 221)